

整形外科手術に活かす！ 創傷治療最新ストラテジー

田中克己

Katsumi TANAKA

長崎大学医学部形成外科

近年、創傷に対してはさまざまな角度からの取り組みが行われており、その考えは各種の治療や手術において適用されることで、これまで以上に効果的に、安全な医療につながってきている。

創傷に関しては、以前より多くの理論とそれに応じた処置が開発され、現在に至っている。しかし、創傷を取り巻く環境も多様化しており、年齢構成の変化、各種病態に伴う創傷の難治化、医療の地域偏在化など、さまざまな課題を抱えながら治療に当たらなければならない。そこで、創傷治療における従来の考えと合わせて最新の理論と技術を導入することで、効果的な医療につなげる必要がある。

今回、創傷治療に関する基本的原則と臨床への応用について、この領域の第一人者の先生方に分かりやすく、最新のストラテジーとしてまとめていただいた。創傷治癒の基礎と創傷の種類の概説に始まり、保存的治療と創傷被覆材の選択、デブリドマンと wound bed preparation を通した創傷の取り扱いが述べられている。組織別には、超高齢社会における骨折への対応、神経障害における最新技術の導入、骨・軟部組織感染への取り組みについて、また、重度四肢外傷においては独自のチームアプローチを解説していただいた。さらに病態別の難治性創傷への対応、創傷治癒と再生医療、そしてケロイド・肥厚性瘢痕への予防と治療について詳述していただいた。いずれも限られた紙幅の中で、その図説とともに、大変丁寧で分かりやすい内容となっている。

最後にご多用の中、本特集にご寄稿をいただいた先生方に重ねて感謝するとともに、本特集が整形外科手術をはじめとして、整形外科医の方々の日常診療の助けとなり、患者の方々への福音につながることを願っている。